

《日本国現報善惡靈異記》

图书基本信息

书名：《日本国現報善惡靈異記》

13位ISBN编号：9784582800975

10位ISBN编号：4582800971

出版时间：1967/8

出版社：平凡社

作者：景戒

页数：253

译者：原田 敏明,高橋 貢

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介以及在线试读，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu000.com

《日本国現報善悪靈異記》

内容概要

成立年ははっきりしないが、序と本文の記述から、弘仁13年(822年)とする説がある。著者は奈良右京の薬師寺の僧、景戒である。景戒は、妻子とともに俗世で暮らしていたと記しており、国家の許しを得ない私度僧に好意的で、自身も私度僧だったという説もある。

上巻に35話、中巻に42話、下巻に39話で、合計116話が収められる。それぞれの話の時代は奈良時代が多く、古いものは雄略天皇の頃とされている。場所は畿内と周辺諸国が多く、特に紀伊国が多い。登場する人物は、庶人、役人から貴族、皇族に及び、僧も著名な高僧から貧しい乞食僧まで出てくる。

説話自体が事実を伝えるものではないとしても、その主題から外れた背景、設定からは、当時の世相をうかがい知ることができる。田に引く水をめぐる争い(上巻第3)、盗品を市で売る盗人(上巻第34、第35、下巻第27)、長期勤務の防人の負担(中巻第3)、官営の鉱山を国司が人夫を使って掘ること(下巻第13)、浮浪人を捜索して税をとりたてる役人(下巻第14)、秤や榊を使い分けるごまかし(下巻第20、第26)などである。また、『靈異記』の警告に反し、実際の俗人の生活様式が殺生と無縁ではなかったこともわかる。

編纂の目的から、奇跡や怪異についての話が多い。『靈異記』の説話では、善悪は必ず報いをもたらし、その報いは現世のうちに来ることもあれば、来世で被ることも、地獄で受けることもある。説話の大部分は善をなして良い報いを受けた話、悪をなして悪い報いを受けた話のいずれか、あるいはその両方だが、一部には善悪と直接かかわりない怪異を記した話もある。

仏像と僧は尊いものである。善行には施し、放生といったものに加え、写経や信心一般がある。悪事には、殺人や盗みなどの他、動物に対する殺生も含まれる。狩りや漁を生業にするのもよくない。とりわけ悪いこととされるのが、僧に対する危害や侮辱である。と、これらが『靈異記』の考え方である。

転生が主題となる説話も多い。説話の中では、動物が人間的な感情や思考をもって振る舞うことが多く、人間だった者が前世の悪のために牛になることもある。

《日本国現報善悪靈異記》

作者简介

生没年不詳、奈良時代の薬師寺の僧。日本最初の仏教説話集『日本靈異記（日本国現報善悪靈異記）』の著者として知られる。

出自については不明であり、その記述から紀伊国名草郡の犬養氏の出身とする説が有力であり、また私度僧（国の許可を得ず僧を称したもの）の説話が多いことから、景戒を私度僧とする説もあるが定かではない。ただ妻子や馬を持つなど半俗生活を営んでいた。彼は、787年（延暦6年）にあらわした靈異記の初稿本を年を追って集成し、822年（弘仁13年）に完成させたとみられている。795年（延暦14年）に伝灯住位を授けられた。

《日本国現報善惡靈異記》

精彩短评

1、看不懂

《日本国現報善惡靈異記》

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu000.com